

2026年度 地歴公民 科 年間授業計画表						
科目名	政治・経済		単位数	2	学年・類型	3年文系・選択
担当者	使用教科書		詳述政治・経済(実教出版)		副教材	最新図説政経(浜島書店)
科目の目標 (指導目標)	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識・技能)					
②思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。(思考・判断・表現)					
③主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。(主体的に学習に取り組む態度)					
評価方法						
① 知識・技能について・・・定期テスト、課題テスト						
② 思考力・判断力・表現力について・・・定期テスト、論述型レポートの作成等						
③ 主体的に学習に取り組む態度・・・授業中の諸活動における取り組みの様子、自己評価、生徒による相互評価						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	第1部 現代日本における政治・経済の諸課題	第1章 民主政治の基本原則	・民主政治の本質を世界のおもな政治体制と関連させて理解する。	○	○	
	第1編 現代日本の政治	第2章 日本国憲法基本的性格	・基本的人権の意義、法の支配、民主政治の発達と人権の発達、世界の政治体制、20世紀の教訓を学習し、民主政治の課題は何か考える、 ・日本国憲法の成立、日本国憲法における平和主義、基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	○		○
1 学期 後半		第3章 日本の政治機構	・日本の国会、内閣、裁判所、地方自治のしくみを学習し、民主主義がどのように実現されているか理解するとともに、他の国の制度とくらべて今後の課題は何か考える。	○	○	
		第4章 現代日本の政治	・戦後政治の流れと日本の特徴、政党と選挙、行政機能の優位、世論の役割について学習し、日本の政治がかかえる問題について考える。	○	○	

2 学 期 前 半	第2編 現代日本の経済" 第3編 現代日本におけ る諸課題の探究	第1章 経済社会の変容 第2章 現代経済のしくみ 第3章 現代経済と福祉の 向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際政治と国際法の意義、国際連合の成立と活動、東西冷戦終結後の国際政治、核軍縮や管理について学習し、国際政治と日本の関係について考える。</li> <li>・今日の経済を、企業、家計、政府の役割、市場による調整、世界経済における相互依存などの視点から理解する。</li> <li>・経済活動の特徴、資本主義経済の発達と変容、資本主義経済の特徴について学習し、経済活動の意義について考える。さらに、経済のグローバル化が生活に及ぼす影響について考える。</li> </ul>	○	○	○
2 学 期 後 半	第2部 グローバル化する国際社会の諸 課題 第1章 現代の国際政治 第2章 現代の国際経済		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済主体の役割、市場のしくみ、国民所得、経済成長、金融のしくみ、財政の役割を学習し、経済活動がどのように調整されているか考える。</li> <li>・日本経済の発達のながれ、中小企業問題、日本の農業、国民の生活、環境・公害問題、労働問題、社会保障の役割について学習し、多様な課題にどのように取り組むべきか考える。</li> <li>・商品・資本の国際取引、国際収支、資本主義経済の展開、南北問題を学習し、世界経済と日本経済のかかわりについて考える。</li> </ul>	○	○	○
3 学 期	第3章 国際社会の諸課 題の探究		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な知識を習得させる。</li> <li>・グローバル化する国際社会の諸課題について、必要な情報を収集し、読み取り、まとめさせる。</li> <li>・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述させる。</li> </ul>	○	○	○
留意事項	「倫理」「世界史」「日本史」の学習と関連する。					

2026年度 地歴公民 科 年間授業計画表						
科目名	公共演習	単位数	2	学年・類型	3年 文系	
担当者		使用教科書	『公共』（数研出版）	副教材	最新図説公共（浜島書店） 公共 整理ノート（数研出版）	
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会に対する問題意識を高め、さらに意欲的に追及する能力を養う。</li> <li>・基本的事項に関する知識を身に付け、その知識を活用して現代の社会のしくみや人間についての特性など総合的に理解する。</li> <li>・問題演習などを活用しながら、現代社会に関する基本的な問題について考察する力の基礎を養う。</li> </ul>					
評価の観点とその趣旨						
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している</li> <li>・諸資料から、倫理的主体等として活動するために必要となる情報を、適切かつ効果的に調べまとめている。</li> </ul>					
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、諸事実を多面的・多角的に考察し、公正に判断している。</li> <li>・合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを発信し、議論している。</li> </ul>					
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に入れて、主体的に取り組む解決しようとしている。</li> </ul>					
評価方法						
○個別の知識及び技能の習得状況について評価・・・定期テスト、課題レポート、小テスト ○思考力、判断力、表現力等の評価・・・論述式レポートの作成、プレゼンテーション、集団討議の観察、定期テスト・小テスト ○上記能力の習得にあたっての積極的な取組みを評価・・・授業ノート・レポート、授業中の発言や行動の観察、生徒の自己評価や相互評価など						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	公共的な空間を作る私たち	1 青年期と自己形成	○青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。	○	○	
		2 人間としての自覚	○現代社会で生きる上で何が課題なのか、現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解します。			○
		3 日本人としての自覚	○キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。 ○自由についてのカントの道徳法則と人格、J.S.ミルの自由についての考え方の理解を基に、人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。 ○アーレントやハーバーマス、和辻哲郎の思想の理解を手がかりに、社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について考察します。 ○丸山真男の考え方、「公」と「私」の捉え方などを手がかりに、ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し、そこにおける課題について考察します。	○	○	○
1 学期 後半	公共的な空間における人間としてのあり方生き方	1 西洋近現代の思想	○行為選択の理由付けについて、目的論と義務論の考え方があることを理解します。 ○目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解します。 ○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。	○	○	○

		2 現代の諸課題と倫理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解します。</li> <li>○社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解します。</li> <li>○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。</li> <li>○生命科学の進歩がもたらしたエンハンスメントとその倫理的課題について理解します。</li> <li>○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスメントについて考察し議論します。</li> <li>○人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題にかかわる思想や環境倫理について理解します。</li> <li>○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかかわる倫理的課題について考察し議論します。</li> </ul>	○	○	○	○	○
2 学 期 前 半	公共的な空間における基本原理	1 民主社会の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割、及びそれぞれの課題について理解します。</li> <li>○社会における意見や利害の調整、意思決定における民主主義の意義、それらの課題について理解します。</li> <li>○法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解します。</li> <li>○立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察します。</li> <li>○公共的な空間における基本原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解します。</li> </ul>	○	○	○	○	○
		2 日本社会の基本原則	<ul style="list-style-type: none"> <li>○政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解するとともに、現在の民主主義の課題について考察します。</li> </ul>	○	○	○	○	○
2 学 期 後 半	現代の民主政治と政治参加の意義	1 日本の政治機構	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三権分立と国会の地位、国会の役割と権限、国会の構成と運営について、実際の政治事象とも関連させながら理解します。</li> <li>○政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察します。</li> <li>○内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解します。</li> </ul>	○	○	○	○	○
		2 政治参加と民主政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。</li> <li>○地方自治の原則としくみ、地方財政のしくみと課題、住民参加の形態と意義について理解するとともに、地方自治の課題について考察します。</li> <li>○政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解します。</li> <li>○有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察します。</li> <li>○民主政治における政党の役割、日本の政党政治、政治に影響を及ぼそうとする利益集団、政治資金にかかわる課題などについて理解します。</li> </ul>	○	○	○	○	○

			<p>○民主政治における政党や利益集団の役割，政治資金にかかわる課題について考察します。</p> <p>○民主主義における世論の意義，メディアの世論への影響，インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解します。</p> <p>○世論形成に及ぼすメディアの役割，正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察します。</p>	○	○	○
3 学期	現代の経済社会 と経済活動のあり方	1 経済のしくみと市場経済	<p>○経済活動の意義，経済主体と経済循環，グローバル化のなかの経済活動の動きについて，実際の経済事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○経済循環について，例えば「家計」を中心にして，「政府」「企業」との関係を説明できるようにします。</p> <p>○市場経済における価格の働き，市場の失敗と政府の役割について，実際の経済事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○市場メカニズムの意義と限界，政府の役割が求められることとの関係について考察します。</p>	○	○	○
留意事項		自発的に学習に取り組むことを期待します。				

2026年度 数学科 年間授業計画表

科目名	数学ⅠA演習	単位数	4	学年・類型	3年 文系・選択	
担当者		使用教科書	高等学校 数学ⅠA (教研出版)	副教材	リンク数学演習ⅠA(教研出版)	
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</li> <li>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</li> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</li> </ul>					
評価の視点とその趣旨						
①知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
②思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。					
③主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。					
評価方法						
記述の点検, 確認, 分析, 行動の点検, 確認, 分析 (定期テスト, 小テスト, 課題レポートやその他提出物等への取組状況, 授業への取組状況 等)						
学習指導計画						
時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期	【数学Ⅰ】 ・数と式 ・集合と命題 ・2次関数 ・図形と計量 ・データの分析	数学ⅠA全範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習を通して、これまでに学んだ内容を復習し、教科書例題レベルの問題を確実に解く技能を身に付ける。</li> <li>・計算技能を高めるとともに、事象に対して道筋を立てて考える能力を身に付ける。</li> </ul>	○	○	○
	【数学A】 ・場合の数と確率 ・図形の性質			○	○	○
2学期前半	数学ⅠA (総合演習)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護系専門学校・大学等の入試問題集を利用し、各自の目標にあわせた技能を活用する姿勢と思考力・判断力を身に付ける。</li> <li>・計算技能を高めるとともに、事象に対して道筋を立てて考え、論理的に判断し表現する能力を身に付ける。</li> </ul>	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。</li> <li>・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。</li> </ul>	○	○		
2学期後半・3学期	数学ⅠA (マーク式演習)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。</li> </ul>			○	
留意事項	演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。必要に応じてテキストを購入します。					

2026年度 数学科 年間授業計画表

科目名	数学B・数学IⅡABC演習	単位数	1・3	学年・類型	3年 文系・選択
担当者		使用教科書	高等学校 数学IⅡABC (数研出版)	副教材	クリアー数学B・チャート式B リンク数学演習IⅡABC(数研出版)
科目の目標 (指導目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</li> <li>・数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</li> <li>・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</li> </ul>				

評価の観点とその趣旨

① 知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力を身に付けている。数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

評価方法

記述の点検, 確認, 分析, 行動の点検, 確認, 分析  
(定期テスト, 小テスト, 課題レポートやその他提出物等への取組状況, 授業への取組状況 等)

学習指導計画

時期	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりの目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期前半	【数学B】 第2章 統計的な推測	第1節 確率分布	・確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できるようにする。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。	○	○	
		第2節 統計的な推測	・母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を育てる。	○	○	○
1学期後半	数学IⅡABC (総合演習)	数学IⅡABC 全範囲	・教科書レベルから章末レベルの問題・入試頻出の解法が必要な問題を中心に扱い、演習を通してこれまで学んだ内容の理解を深め、入試に必要な技能を身に付ける。 ・計算技能を高めるとともに、事象に対して筋道を立てて考え、論理的に判断する能力を身に付ける。	○	○	
2学期前半	数学IⅡABC (総合演習)		・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。		○	○
2学期後半	数学IⅡABC (総合演習) (マーク式演習)		・大学入試問題集を利用し、入試頻出の解法が必要な問題、総合的な力を試す問題を中心に扱い、演習を通して、入試に必要な技能を活用する態度と思考力・判断力を身に付ける。 ・数学的思考力を高め、論理的に判断、表現する能力を身に付ける。 ・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。		○	○
3学期	数学IⅡABC (マーク式演習)		・マーク式問題演習を通して、これまで身に付けた知識・技能を適切かつ迅速に活用する能力を高める。			○

留意事項

演習は予習が前提の授業です。予習は、問題解決に向かって、既習事項を活用したり、出題者の意図を読み取ったりしながら、自ら試行錯誤する学習姿勢が不可欠です。数学の問題の答えは1つですが、解法は様々あります。他人が作成した解法を安易にまねる学習方法では、理系入試に対応する学力は身につけません。必要に応じてテキストを購入します。

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎演習	2	3	文系

使用教科書	副教材等
化学基礎 (数研出版)	新編アクセス化学基礎 (浜島書店) 大学入学共通テスト対策 チェック&演習化学基礎 (数研出版)

科目の目標
物資とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物資とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や、原理・法則を理解し、科学的に探究する方法を身に付けている。
②思考・判断・表現	化学的な事物・現象に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、それらに主体的に関わるとともに、科学的態度を身に付けている。

評価方法	
①	各種テストの知識を問う問題への解答
②	各種テストの思考・表現を問う問題や各单元ごとの課題における解答
③	課題に対する自主的な取組状況

学習計画						
月	单元名	使用教科書項目	单元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 前半	知識の確認	第1編 物質の構成と化学結合  ・物質の構成 ・物質の構成粒子 ・粒子の結合	・構成粒子の違いによる物質の違いを確認できている。 ・混合物と単体、化合物の違い、分離の方法と原理を確認し、原子の構造や電子配置、分子式、イオン式、組成式が確実に書ける。 ・結合の種類と特徴を確実に区別できる。 ・分子間の結合によってできる物質の性質の違い、金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を確認できている。	○	○	
	中間試験			○	○	
1 学期 後半	知識の確認	第2編 物質の変化 ・物質量と化学反応式 ・酸と塩基の反応 ・酸化還元反応	・物質量と溶液の濃度を正しく表わすことができる。 ・水溶液の液性と強弱、水素イオン濃度、pHについて正しく理解できている。 ・酸と塩基の性質と中和反応の原理について正しく理解できている。 ・酸化と還元が電子の授受によることを正しく理解できている。	○	○	
	期末試験			○	○	

2 学 期 前 半	計算問題対策          中間試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質量の計算</li> <li>・水溶液の濃度の計算</li> <li>・中和の量的関係</li> <li>・水溶液のpH</li> <li>・酸化還元反応の量的関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶液の濃度、中和反応や酸化還元反応の量的関係を確実に理解できている。</li> <li>・計算問題にていねいに取り組み、様々な解答方法を試みることで、確かな計算力が身に付いている。</li> </ul>	○	○	
2 学 期 後 半	実験・グラフ問題対策       期末試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験操作と取り扱い</li> <li>・気体の発生</li> <li>・グラフ問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験に関する必要な知識を整理し、グラフや資料と合わせながら考察することができる。</li> </ul>	○	○	○
3 学 期	思考問題	総合問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データやグラフを用いた分析問題に取り組み、思考力を身に付けている。</li> </ul>		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	生物基礎演習	2	3	文系生物基礎選択者

使用教科書	副教材等
生物基礎（数研出版）	スクエア最新図説生物（第一学習社） チェック&演習生物基礎（数研出版） む生物基礎（浜島書店） つか

科目の目標
日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、生物学的に探究する態度と能力を育てるとともに、基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	生物や生物現象について理解をするために、基本的な知識や観察、実験の技能を身につけている。
②思考・判断・表現	生物や生物現象について理解を深めるために、発展的な知識や生物現象が生じる因果関係について考え、表現することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象と主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身につけている。
評価方法	
① 各種テストの知識を問う問題 ② 各種テストの思考を問う問題 ③ 授業のワークシートへの取り組み状況、記述内容	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4月	序章	顕微鏡観察の基本操作	顕微鏡の操作方法やスケッチの技法を身につける。	○		○
5月	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成	生物は多様でありながら共通性をもっていることを理解する。生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。	○	○	
6月 7月	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。	○	○	○

9月 10月	第3章 ヒトの体内環境 の維持	体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。からだに異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。	○	○	○
11月 12月 1月	第4章 生物の多様性と 生態系	植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	植生の成りたちや相観について理解する。世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。生態系がもつ復元力について理解する。	○	○	○